

町民に寄り添う施策に

ついて問う



質問者
南雲 まさ子 議員



(1) 今年1月23日厚生労働省は、使用済みのおむつを保護者が持ち帰らず、保育所で処分することを推奨し、自治体に通知をしました。使用済みのおむつを圧縮・密封する処理機の導入により、保育園・保護者の負担軽減を
するお考えは。

(2) がんは医療の進歩により治療を受けながら、学生生活、社会生活を送ることが出来るようになり
ました。がん治療による脱毛に苦痛を感じる患者さんの精神的、経済的負担軽減のため、医療用ウィッグの助成をするお
考えは。

(3) ご家族がお亡くなりになると、ご遺族は死亡時に多岐にわたる行政手



続きをしなくてはなりません。ご遺族の負担軽減のために、ワンストップ手続きの「ご遺族支援コーナー」を設置するお考えは。

A 町民に寄り添った対応に取り組む

A



回答 (町長)

(1) さくら保育園では、おむつの持ち帰りは検討しているが、処理機の導入はしないと聞いている。持ち帰りを無くすことは保護者負担軽減ができ、

保育士もおむつを振り分ける業務が無くなる。今後、さくら保育園のご意向を尊重しながら対応していく。

(2) 医療用ウィッグ以外にも小児の予防接種のやり直し、若年患者の妊娠するための必要な能力の温存など、自己負担の費用がかかるものがある。がん治療の影響による自己負担分の助成を調整し、早期に対応していく。

(3) 町民から「遺族支援コーナー」設置の要望があり、現在ワンストップに近い形で対応している。近隣で実施している自治体の取り組みを参考にして、町民サービスの向上につなげていく。

庶子地区「酒匂川左岸道路新設」

ついて



質問者
田代 実 議員



山北町境から庶子坂本地区まで堤防を利用した「酒匂川左岸道路」を新設するため、設計委託料1050万円が4年度予算に計上されています。

この左岸道路は、災害時の国道246号線の補完道路として令和8年度の開通を目指すとのことですが、沿線住民の立場から懸案事項もありますので、次のことについて町長のお考えを伺います。

(1) 多くの方が遊歩道として利用している。道路幅5mの車道を新設する計画だが、歩道の設置は難しいのか。

(2) 左岸道路が新設されると十文字橋の町道に接続するが、沿線住民の賛同は得られているか。

A 新十文字下のネック箇所の改修は、すぐにはできない

A



回答 (町長)

(3) 交通量増加に伴う沿線の人身事故防止対策と、新十文字橋下の町道がネック箇所となるのでバイパス新設の計画は。

(1) 車両の通行帯4mと歩行空間1mの整備を計画、大型車の通行は規制する。通行量から歩道は設置しないが、川側の低水護岸の通路を歩行者に

利用していただく。

(2) 「コロナ禍のため対面で住民の説明会は中止し、沿線の自治会に回覧で意見を募集した。「速度超過による事故が心配」「車両や歩行者が混在し危険」との声が寄せられたので、安全・安心の生活道路を整備するため、しかるべき時期に沿線住民を対象とした説明会を開催する。

(3) バイパスの新設は、河川内に整備するのでハードルが高いが検討する。町道のかなん沢橋の拡幅や、親水広場進入路の力ープの拡幅・減速対策は検討するが、今回の道路新設に含まない。

坂本地区の左岸堤防

